



東谷中学校だより

令和3年度11号 ～学力特集号～

発行日：令和3年 11月29日
発行：北九州市立東谷中学校
発行者：校長 樋口 弘樹
ホームページアドレス
<http://www.kita9.ed.jp/higashitani-j>

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	○全体的にどの分野においても、全国や県平均を若干下回っている。選択式の回答における無回答率もほぼない。 ○話すこと・聞くことに関する分野において課題が見られる。
数学	○分野によっては、全国、県平均を若干上回る結果となった。記述式の無回答率は、数学的に説明する部分で無回答率が高かったものの、全国、県平均を下回っている。 ○多くの分野で全国、県平均を若干上回っている傾向があるが、一次方程式の問題については、大きく全国、県平均を下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
○起床時間より、就寝時間についての方が、やや不規則な傾向にある。 ○「自分には良いところがあると思いますか」という質問に対して最も肯定的な回答をした生徒が国や県に比べて少ない。同様に、「将来の夢や目標を持っていますか」についても、最も肯定的な回答が少ない傾向にある。 ○家庭学習を計画的に実施する生徒の、最も肯定的な回答が少ない傾向にある。半数以上の割合の生徒が「3」「4」の回答となり、課題が見られる。 ○読書についても、実施時期については、肯定的な回答が少ない傾向にある。新聞はほとんどの生徒が読んでいない現状にある。 ○「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」については、現時点ではあまり考えていない傾向が見られる。 ○学習の中でICT活用の大切さについては多くの生徒が実感している傾向にある。 ○数学に関して苦手意識をもつ傾向があるが、その大切さについては理解している。 ○自分で決めたことをやろうとする気持ちはあるが、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」姿勢については、全体的に弱い傾向にある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○基礎学力向上のための「毎日の課題(国数理英社)」及び「東谷ノート(自主学習用)」で、家庭学習の充実を図り、学力向上を図る。
○ICTを効果的に活用した授業実践を積み重ねる。
○学力向上3部会を設置し、組織的に授業改善研修を定期的実施している。研究主題やその手立てをもとに、代表者授業を行い、職員全員で成果、課題を共有している。昨年度より、特にICT活用の視点を導入し、日々の実践につなげている。以上を中心に、上記内容をさらに継続、強化して取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組 (生活面での取組も含む。)

○「毎日の課題」と「東谷ノート」を機能させ、家庭と学校をつなぎ、保護者の理解を得て家庭学習の大切さを実感させる。
○「東谷ノート」の活用を通して、家庭学習の状況を把握するとともに、家庭学習の習慣を定着させる。
○学校の実態として、日々の生活の様子を学校便りや玄関前TVモニターで紹介し、それを随時ホームページで更新、発信することで、学校での生徒の様子を伝えて理解していただいている。生徒の一人一人の努力や活動の成果をできる限り共有する。
○学校通信やホームページを通して、校内での取組を発信し、家庭や地域の理解を得て、連携を図る。
上記内容を今後も継続して取り組む。